

第42回 日本基督教団総会

2022年9月27日(火)~29日(木)



速報

42 Kyodan Soukai Sokuho

No.1

2022.9.28
8:45

† 総会速報発行委員会 発行

総会一日目、夜のセッションで議長選挙が行われた。ここ数回の総会では、複数回の投票によって当選者が出ていたが、今回は1回目の投票で、長く教団書記の任をつとめていた雲然俊美議員が新しい議長に選出された。



新議長選出

雲然俊美

雲然新議長は石橋秀雄議長に「石橋議長は5期12年重責を担つてくださつた。様々な困難な中、先頭に立つてくださり感謝である。また、越谷教会にはご苦労をおかけしたことと思い、このことも心から感謝である」と述べ、石橋議長を覚え、高橋和人議員が祈りを捧げた。

石橋議長が「東日本大震災で始まりコロナで終わるという信じられないような12年を過ごした。支えてくれた副議長、書記に感謝である」と挨拶をしました。その後、雲然新議長が「知恵も力も経験もない者だが、主の召しと信じ

第42回日本基督教団総会開催

「礼拝から愛のわざへ」
– 試練の中で日本伝道の推進 –
を主題に

第42回教団総会が、9月26日、池袋のホテルメトロポリタンを会場に始まった。コロナ禍のため4年ぶりの総会開催で、議事開始時点で、総数400名中335名の議員が出席。本総会の主題は「礼拝から愛のわざへ – 試練の中で日本伝道の推進 –」である。

400名中335名の議員が出席。本総会の主題は「礼拝から愛のわざへ – 試練の中で日本伝道の推進 –」である。議事開始時点で、総数400名中335名の議員が出席。本総会の主題は「礼拝から愛のわざへ – 試練の中で日本伝道の推進 –」である。

開会礼拝では平野克己議員（代田）が「罪人の集い・あわれみの主」と題して説教。教団総会が、集まることが喜びとなるような、あわれみのある場となっているかと問い合わせた。

今日はコロナ禍の中での総会開催ということで、感染症対策として推薦議員と准議員のための第2会場が設置されていることや部落解放センターによる解放劇が実施されないこと等が、議事に先立つて雲然俊美書記から説明があつた。

議事日程承認に際し、石橋秀雄議長が議案第55号について教規に抵触するため上程できない旨を述べた。これに對して議場から上程を求める動議が出されたため採決を行つたが少数否決となつた。また議案第52号を先議する動議も出たが否決され、原案どおりの日程が承認された。

続く議長報告において石橋議長は「教団伝道基本方針」の策定、「信徒の友」による伝道推進運動、教団機構改定、沖縄教区との関係回復、出版局の経営改善等この4年間の取り組みを報じた。常議員会報告について雲然書記よりコロナ禍における総会開催の協議や、出版局の経営改善等に多くの時間をかけたことなどが説明された。この報告に対しても大阪教区常置委員会から提出された議案を第22回常議員会が承認しなかつたことについて多数の意見が出た。

久世そらち副議長は、常議員会報告およびその他の諸報告を報告審査委員会に回付することを諮り承認された。告した。これに対して議場からは、教団として小規模教会の実態の把握や、沖縄教区に対するさらなる歩み寄りを求める意見等が出た。

総幹事報告では秋山徹總幹事が新型コロナウイルス感染拡大への対応、諸セントーへの協力、教団メディア戦略や青年伝道等の取り組みや、教団三局の状況を説明した。議場からはセクシアルハラスメント相談窓口の取り組みの報告や、教団立東京神学大学の諸問題の認識を求める意見が出た。

議長報告、総幹事報告共に承認された。

謹んでお受けする。教会も教団もキリストの体なる教会として立つことがすべて。沖縄教区について心痛めており、祈り、課題とする。立ち位置としては地方の小規模教会。そのことが教団の豊かさであると信じ、その立ち位置からふれずに努めたい。お祈りお支えを願う」と挨拶をし、新議長のために熊江秀一議員が祈りを捧げた。

【本投票の結果】

| | |
|-------|-----------|
| 投票総数 | 339票 |
| 有効投票 | 338票 |
| 無効投票 | 1票(内白票1票) |
| 久世そらち | 138票 |
| 梅崎浩一 | 3票 |

(以下省略)

総会速報について

「総会速報」を発行いたします。今回は3号までの予定です。なお、この「総会速報」は、正式の議事録ではありません。拙速ゆえの間違いなどありましたら、ご容赦ください。

また、この速報はインターネットでもご覧になります。

URL www.uccj.org

開会礼拝

「罪人の集い・あわれみの主」

平野克己牧師(代田教会)による説教

詩編133編1
マタイによる福音書9章9節～13節

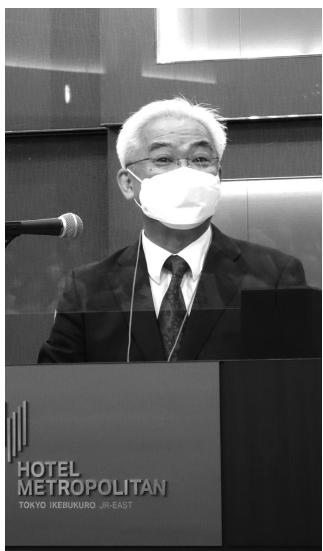
詩編133編1節

「見よ、兄弟姉妹が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」。

た。主が足を止めて声をかけてくださった
兄弟姉妹です。一切の権能を授かった主が
その権威をもって弟子たちを遣わされたよ
うに、その全権を私たちに注いで、三日後
に主は私たちをもとの場所に返そようとされ
ています。

「私たちは主に召された同志です。しかし、意見の一一致が難しい日本基督教団でもあります。総会終了時に、「なんという喜び、なんという恵み」と歌いたいと思います。マタイの召命物語に、私たちの姿を重ねます。マタイは立ち上がりました。これは復活をも意味する言葉です。新しい命に生きたのです。マタイには召しの理由は分かれません。しかし、主の側には召しの理由、動機がありました。それで良いのです。

その後、マタイの周囲に人々が集まり、罪人のパーティが始まりました。社会から疎外された人々の集いです。しかし律法学者たちはこの集いを受け入れることができませんでした。なぜこんな食事会をするのか、主に直接問うことなしに、陰口的に弟子に問います。ファリサイ派とは「分離



そんな私たちに主の声が響きます。「私が求めるのは憐みであって、いけにえではない」。正しい信仰の行いをなすことで教会が成り立つではありません。主が望むのは憐みです。正義も大切ですが、主の憐みが分からなければ教会とは呼べません。

教団総会が始まります。ようこそ、罪人の集いへ。赦された罪人です。憐みに生きましょう。主がお求めになられるのは、憐みに生きることです。「私が求めるのは憐みであって、いけにえではない」。

その後主は、譬えを付け加えます。「新しい酒は新しい革袋に入れるべきである。もしも古いままであつたら、その新しい葡萄酒も革袋も裂けてだめになるでしょう」。

沖縄教区の方々がここにおられません。どうしてなのでしょうか。身近な教会でも、コロナ対応において教会が一分し、牧師が辞任することがありました。正しさと正しさが衝突したのです。

教ナザレ派に分裂したと聖書学者は考えます。私たちの教会の姿がここにあります。ファリサイ派は教会の中において、私であります。牧師がそうです。イエスさまに申し訳なく思ひます。

したもの」との説明がなされています。あの人と私は違う、そうレッテル張りをし自分たちのアイデンティティを確立します。主はお答えになります。「医者を必要とするのは丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」。私たちの教会の一つの問題は、教会の中に主がいらっしゃらないなくなっていることなのかも知れません。教会には主を必要とする人が少数になつていてるのももしません。ファリサイ派は多いのかも知れませんが。その後ユダヤ教は、ユダヤ教ファリサイ派とユダヤ

第41総会期 第22回 常議員会報告 (9月26日)

年金局規定変更および「謝

が9月26日、教団会議室で常議員20名が出席して開催された。
総幹事報告において秋山徹
総幹事は、第42回教団総会に
ついて、審議時間が限られる
中で、スマーズな議事進行へ
の協力を求めると共に、事務
局として、ホテル側と協議し
感染症対策を講じていると報
告した。

北村慈郎教師戒規撤回議案について、「議案が法規則に則つてゐるかどうかを常議員会で判断するのは、『常議員会を経る』を超えている」、「戒規の是非ではなく、戒規に至る手続きに疑義があることとを議論すべき」等の賛成意見がある一方、「戒規を教師

尾島信之大阪教区議長は、「3年間、集まつて総会を開催できます、常置委員会で議論した」と述べた。雲然書記は、常置委員会からの提案の場合、教規24条には「常議員会を経なければならない」とあり、答申集による先例に従い①形態、書式が整つてゐることと、②法規則に則つていることを審査してきたと説明した。

北村慈郎教師戒規撤回議案を少數否決、沖縄宣教連帶金議案は賛成6名で否決、辺野古新基地議案を賛成7名で否決した。

では、「教区総会で議決して
出すべき」との意見がある一方、
「常議員会を経る」の答申集による先例に従い、内容審査は行わずに総会議案とす
べき。」(中略)。

ば記されている」との意見に対し、尾島大阪教区議長は「経緯が皆に明らかになるよう提示してほしい」と趣旨を述べた。

委員会の最終決定とする規則の変更を提案して協議すべき」、「議案は、最終決定された戒規の撤回を求めており、総会で議するのは不可能」等の反対意見があった。

その後主は、譬えを付け加えます。「新しい酒は新しい革袋に入れるべきである。もしも古いままであつたら、その新しい葡萄酒も革袋も裂けてだめになるでしょう」。

教団総会が始まります。ようこそ、罪人の集いへ。赦された罪人です。憐みに生きましょう。主がお求めになられるのは、憐みに生きることです。「私が求めるのは憐みであつて、いけにえではない」。

その後、マタイの周囲に人々が集まり、人のパーティーが始まりました。社会から疎外された人々の集いです。しかし律法者たちはこの集いを受け入れることができませんでした。なぜこんな食事会をするか、主に直接問うことなしに、陰口的に子に問います。フアリサイ派とは「分離

す。マタイは立ち上りました。これは活をも意味する言葉です。新しい命に生たのです。マタイには召しの理由は分かません。しかし、主の側には召しの理由、機がありました。それで良いのです。

私たちには主に召された同志です。しかし、見の一致が難しい日本基督教団でもあります。総会終了時に、「なんという喜び、「んという恵み」と歌いたいと思います。マタイの召命物語に、私たちの姿を重ね

弟姉妹です。一切の権能を授かった主が
の権威をもって弟子たちを遣わされたよ
に、その全権を私たちに注いで、三日後
主は私たちをもとの場所に返そうとされ
ています。

「見よ、兄弟姉妹が共に座っている。な
どいう恵み、なんという喜び」。
対面での総会を開催することができまし
た。主が足を止めて声をかけてくださった